

+幸せを求めるあなたへ

経済パニック panic より怖い人生パニック panic

今、世の中はパニック(Panic)時代 最近、全世界を不安と恐怖に陥るようさせ、混乱させている単語があります。R(recession)の恐怖(景気の低迷)、中産層の没落と国家のドミノ(domino)倒産危機、公務員と金融機関・公企業役員のモラルハザード(moral hazard)、ますます増える倒産企業、20代の37.3%が百数人就職戦争時代、就職をあきらめた95万人の青年無職者(NEET族)、98年IMFの幽霊が戻ってきたと伝えるニューズウィークの記事、14日に小・中・高校生の国家水準の学業達成度評価が行われた日、学校はなくなるべきだと、親に向かって「消えろ」と叫んだティーンエージャー、それゆえ、学業達成度評価を「学生の人権のじゅうりん」行為だとして、国家人権委員会に提訴した一部の教師たち、こういう中で子どもたちを留学させたがる48.3%の親の深まるため息…。そのような中でも19%以上に増えた百万長者、第二次世界大戦後、貧富の格差が最高に深刻となり、最高の上位1%が、全体の所得の21.2%を占有しているアメリカ、全世界0.7%に過ぎない百万長者世帯が世界の富の3分の1を占有しているというウォールストリートジャーナルの報道…。こういう混乱と恐怖を一言で「パニック(panic)状態」だと言います。パニックという言葉は「迫ってくる脅迫的状况に対して起きる集合的な逃走現象」という意味で、その語源は、顔は角が生えた人間で、からだはヤギであるギリシャの神であるパン(pan)から出てきました。



ひと目で見える世界証券市場現況
<資料:SLCクラブ>

パンは、極端な恐怖心を誘発する能力を備えていて、家畜を恐怖と混乱に陥らせたりしたので、集団的な恐怖と不安に襲われる姿をパニックと表現するようになったのです。最近の姿を見れば、終わりの日という言葉が自ずと出てきます。聖書は、

終わりの日にはこういう時代が来るという事実を知らせています。「また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしようが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです」(マタイの福音書24:6~8)

さらに怖い人生パニック(Panic) 今、起きている経済パニックより、さらに怖いことがあります。それが、まさに人生パニックです。グローバル金融危機が迫ってきて、直ちに、先進国の海外援助で暮らしている最も貧しい国々は、存在の危機に直面しています。世界銀行は経済パニックで、今年、栄養失調になった人が9億6700万人に増えると報告しました。聖書は、人生パニック時代を警告しています。終わりの日に苦しみの時が来れば「そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり」(テモテへの手紙第二3:1~4)とされています。それなら、人間の真の幸せは、本質が変わってこそ可能なのです。水を離れた魚、根が抜けた木、神様を離れた人間の問題と苦しみの開始は、条件と環境のせいではなく、根本的なところにあります。神様を離れた後に訪れた運命、目に見えないサタンの働き、その中で、言葉にもできないほどやられてしまう霊的問題と、反復する罪によるのろいと混乱...ここからの本質的な解放と解答が、まさにイエス・キリストなのです。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」(ヨハネの福音書1:12)これがイエス・キリストをこの世に送られた神様の目的であり、願いなのです。

地球上で、 だれもができないこと

価値を知らなければ 私たちと重職者がどれくらい重要なのかを分かる以前には、私たちが知っていることは、それほど重要ではないでしょう。全てのものをみなささげても、100倍の祝福を受ける理由を分かる前には、持っているものが祝福にならないでしょう。いのちをかける価値を発見する以前には、私のいのちと人生は意味がないでしょう。出エジプトしたときに紅海が分かれたことより、もっと大きい答えが、初代教会のマルコの屋上の中で起きました。その当時のユダヤ人が見る時は、貧しくて見るべきものがない人々だったのですが、神様がご覧になる時、彼らは最高のレベルの人々でした。福音を持ったひとりを通して、地域を生かして、教会を生かして、家系を生かせるというと、高慢な話のように聞こえるかもしれませんが、神様は福音を持った一人を用いられるのです。マルティン・ルターの場合、1人で中世時代を変えて、ジョン・ウェスレイ1人でヨーロッパを、ムーディー1人を通してアメリカを変えました。地球上で、だれもができないことができる人、その人がまさに福音を持った人です。

キリストを知らないことは キリストを知らず、無視した数多くの強大国は、すべて歴史の中に消えました。エジプト、アッシリア、バビロン、ペルシャ、ペリシテ、ローマ、初代教会の当時、最高の思想を自慢していたユダヤ人も、歴史の中で言葉にできない苦難にあって、その当時の最高の文化の花を咲かせていたマケドニアは、今は遺跡が残っているだけです。最高の政治を持っていたローマは、戦争の中で血を流す歴史で終えなければなりません。キリストを知らないということは、必然的に滅びを抱いて生きるということと同じなのです。だれが彼らを生かせるのでしょうか。それこそ、唯一性の福音を持った重職者でこそ、できるのです。すべてのものがあるのに、福音だけなくなっていくこの時代に、何のためにあちこちに地教会を立てて、福音の光を放たなければならないのか、真剣に悩む時です。

神様の子どもになる、受け入れの祈り
愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで復活されることによって、私のすべての問題を解決されたキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いてイエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから神様の子どもになった祝福を味わいながら生きることができるようになります。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様子どもの毎日のお祈り

父なる神様。イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導いてくださることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊に満たしてください。私の家庭と現場と、行く歩みごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を、権威あるイエス・キリストの御名によって縛ってください。どんなこと、どんな問題も、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見して、聖霊の導きを受ける生活になりますように。それで、私の生き方を通してイエス様がキリストであることが宣べ伝えられ、私の現場に神様の国が臨みますように。毎日の私の生活の中で、神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利させてください。今でも私とともにおられるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

伝道者の祈り

今日も復活された主の働きで、私が新しくなる力を得ることができるようになります。必要な問題をくださった神様は、必要な答えをくださると信じます。当然に起きなければならない問題をくださった神様は、当然の答えをくださると信じます。契約を持った者に約束されたみことばが成就する絶対的な答えをくださると信じます。今日、霊的な目が開かれる祝福の日になりますように。福音の当然性、必然性、絶対性を味わう目が開かれますように。今日も私の伝道の中で渡される資料を通して、福音が宣べ伝えられ、弟子が起き、人を生かして現場を変化させる神様のみわざが起き、私の小さい献身が教会を生かしますように。この世には、苦しんでいる人があまりにも多いです。彼らに福音をあげて、彼らを愛することができる献身が生まれますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

My Way - 当然性+必然性+絶対性

破滅の道に行ったロックンロールの皇帝エルビス・プレスリー(Elvis Presley) 1977年8月16日、自分の邸宅のトイレで、金色の寝巻をはおって、トイレの便器に座ったまま死んでいるのを発見されたエルビス・プレスリー(42)。極貧の農家で生まれた彼は、1956年以後スターの道にかけ上がった誠実で礼儀正しい青年でした。しかし、富と名声が提供した広い道の誘惑を振り切ることができず、好色と貪欲、肉体的な快楽に陥って、破滅の道に入るようになりました。すでに薬物中毒と窃視症に陥っていた彼は、死亡した日に占星術と性体位に関する写真本を読んでいたと当時の検視官は伝えています。死亡した歌手の中でも、最も多くのお金を稼ぐ彼が、なぜこういう悲劇的な生活を送らなければならなかったのでしょうか。彼がヒットさせた数多くの歌の中にリバイバル曲であるMy Wayがあります。その歌詞の中に最も多く反復される歌詞が“ I did it My way.”(私はそれを私のやり方のとおりしてきた)です。彼は人生の真の道を探ることができないのです。**それなら私たちが探さなければならない人生の真の道はなんでしょうか。**強大国ローマを征服した初代教会は、まさにこの道に立っていました。

当然の道 初代教会の聖徒は、当然、起きるしかない、いのちの運動のために生きていました。毎日、イエスがキリスト(使徒1:1)であることを告白して、私の人生の主人として、その中からすべての答えと力を得ました。どんな環境が迫ってきても、それを越えて、神様の国(使徒1:3)を味わうようになりました。自分の弱い体質までも越える、聖霊の満たし(使徒1:8)の働きを味わいました。行く所ごとに、この働きを待ちながら、当然、神様の子ども7つの祝福と未信者状態の6つに勝つ権威を味わって、天国の背景で唯一性の答えを受けるようになりました。

必然的な道 初代教会の聖徒は、弱さと傷を持っていたのですが、いつも神様が聖霊とともにおられることを信じました(1コリント3:16)。それで、私の考えのとおりするのではなく、神様が望まれることならば、いくら大きいことでも、いのちをささげるようになっても献身しました。自分の性質を越えて、神様の導きを受けようともがく、それ自体がすでに成功であるのです(ヨハネ14:16~17)。この中で祈る時、神様の力が臨む聖霊の満たしを味わうようになって、私の人生と現場、時代が必要とすることが見えるようになります(使徒1:8)。

絶対的な道 私たちの残った生涯、神様が作っておかれた絶対的な道に従って行かなければなりません。神様は、世界福音化のための明らかな時刻表を持っておられます。それで、私たちは私の伝道を探して、重職者を立てて、すべての地域に福音の光を照らす地教会の答えを味わわなければなりません(使徒9:1~43)。私の伝道現場の中で、さらに一歩進んで、宣教現場の中に、マケドニヤへ、ローマへ、その歩みを導かれるようになります(使徒19:21)。この時、神様と通じる永遠な計画の中に私の人生があるようになります(ローマ16章)。そうすれば、だれも防止できない絶対的な答えが来るようになります。この3つの道を一生握って歩いていく時、レムナントには最高の出会いの祝福が、産業人には福音文化と専門性の祝福が、重職者には主役の祝福が、唯一性の答えで来るようになるのです!

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日、毎日の答えの泉

27日(月)

学業と伝道と訓練をどのように効率的にできるのでしょうか(テモテ4:1~5)
世の中に出て行く前に、かならず福音の味、祈りの力、伝道の働きを体験しなければなりません。この答えの中で、学業と産業が出てきたら、かならず証拠がきて実を結ぶようになります。このことが伝道です。

28日(火)

新しい開始(ローマ16:25~27)

まず、最初に考えを変えて、全てのことを更新の機会として誠実に臨めば良いのです。私を越えて神様の恵みを、答えを越えて神様の願いを、仕事を越えて神様の計画を、祝福を越えて神様の契約を、人間の愛を越えて神様の愛で、始めれば良いのです。

29日(水)

わたしは世に勝ったのです(ヨハネ16:25~33)

聖書にだけ人間に滅亡の問題をもたらすサタンが存在を明らかにしています。それで、キリストが来られて、サタンの権威をうち壊して、私たちに勝つ権威をくださいました。そして、私たちに「勇敢でありなさい。わたしは世に勝ったのです」と約束されました。

30日(木)

3種類の使命者(使徒6:1~7)

教会の中には、いてもいなくてもよい人、いてはいけない人、かならず必要な人がいます。かならず必要な人は、福音、祈り、伝道の働きを知って、信仰と知恵と聖霊の満たしを持続しながら、神様が開かれる3時代の祝福を味わう人です。

31日(金)

伝道者のスケジュール(マタイ28:20)

この時代に向かった神様の全体計画を知って、この計画の中で私たちの教会と私の役割は何かを握らなければなりません。そして、神様の未来が私の現実として迫ってきて、すべての契約を私の生活を通して味わわなければなりません。

1日(土)

新しい準備(使徒9:15)

神様の働きを体験するには、表面の姿よりも内容が重要です。福音的な体質、福音的な考えを準備して「ローマも見なければならぬ」という器を準備する時、神様が全てのことを答えてくださいます。

週間メッセージ

- 産業宣教 社会性と社会文化を生み出さなければならぬ大学・青年(使徒19:8~10)
- 伝道学 葛藤(5)-異性問題-福音より感情が先になる(創世記29:20)
- 核心訓練 宣教を分かる重職者(使徒13:1~12)
- 聖日1部 イエス復活に対する科学的理解(ヨハネ20:1~10)
- 聖日2部 たましいのフォーラム(使徒1:12~26)



イラスト_ユン・スルギ

どこへ行かれるのですか

早朝にひとりで上がった山で、自分だけがいると思ったが、遠くから先に上がっていた人のあいさつが聞こえてくる。本来は同じ地面であるが、人々が踏んで歩くので、道になったところで、人々は細かくどこへ向かうかによって、矢のように往來する。歩く者と自動車を利用した長い行列が、ガソリン代が高いのも無視するような大きな音を出して、道路いっぱい満たされている。空の道、水路、地面の中の道など、道がある所には山道まで、間違いなく方向性を持った動きがある。

普通の人々は、出世と成功のために、自分の名誉を背負い、分からない未来に向かって休むことなく走って行く。可能性のある日をチャンスの時間だと思い、その人生の価値を味わうには、すべて自分の道が最高であり、最も希望があると信じている。その最後の日の時を知らないで...

キリストのそばで経済の責任を持っていたイスカリオテのユダは、非常に良い経験と学習を得ることができただろう。地上最高の師匠であるイエス、人類の救世主だったその方の御声と体臭と弟子共同体の必要を最も近くで切実に満たした彼の労苦は、価値ある歩みだったが、彼は十字架の道を捨てて、私道に行った。永遠に元に戻ることができないところへ...

偶然な道を行った、ばか正直な青年クレネ人シモンは、願わない十字架の労役を負わされた。人間の罪とのろいを一人負って行く血だらけのキリストのそばで、パラバの体重ぐらいの重さがある十字架を背負ってゴルゴタへ向かう、願わない歩みは重くて、また疲れただろう。後には祝福であることが分かったが、当時には意味を知らなかったのも、よりいっそう...

初代教会のキリスト教は迫害を受けたが、その中に私たちが記憶する皇帝のネロがいる。彼の精神病は、ローマに火をつけて、その言い訳をキリスト教にせいにして迫害する間、使徒パウロを殉教させ、彼の深刻な迫害の中で、使徒ペテロもローマをしばらく避けるという弟子の勧誘に従って、ローマを抜け出した時に、ある青年に会うようになったが、彼は他でもないイエス・キリストだった。この時の質問が、まさに「クオ、バディス、ドミネ」(Quo Vadis Domine 主よ。どこに行かれるのですか)であった。ペテロが捨てて行く十

字架を、キリストがまた負いに行かれるという話を聞いて、ペテロは来た道を戻り、ローマに行ってもキリストがかけられた十字架に、自分も同じようにかかることはできないと言って、逆さにかかって殉教したと言い伝えられている。求められたが、選択されることはなかったイスカリオテのユダのような私道と、願わなかったが祝福を味わったクレネ人シモンのような宗教の道と、福音の事実性を当然に受ける唯一の道のペテロは、私たちに重要な意味を分かせてくれる。

だれでも、行く道があるならば、緻密に、また熱心に行かなければならない。しかし、記憶すべきことは、人生に苦勞を与えられた神様は、その道の最後に立っておられるということだ。季節の循環は、若葉を落葉にするように、個人の人生がその道に立ってられない日が、だれにでも、かならず迫ってくる。ただし、その道にいる時、行く道を分かる者にならなければならない。どこへ行くのか知らないならば、かならず行かずに、立って、どこへ行くかを考えてみるべきなのだが、今、この時間がまさにその時間なのだ。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方は、ここに連絡してください